

コラム：ロシアに芽吹く楽観主義？

戦略産業ユニット 国際動向・戦略分析グループ
栗田抄苗

ロシア最大の国営ガス企業ガスプロムだが、いまやロシアの楽観主義を体現する企業となりつつある、と言うと言い過ぎだろうか？

2006 年、2009 年のウクライナガス危機をきっかけに、欧州ではロシアからのガス輸入依存度の見直し議論が高まっているところに、世界金融危機の影響で世界的に天然ガス需要は減退し、ロシアからのガス輸入も大幅に減少した。その結果、収益の 60%を欧州向けガス輸出に依存するガスプロムは大きな痛手を被ることとなった。同社はこれまで最優先プロジェクトとしてきた北米市場・欧州市場向け輸出を念頭に置いたシュトックマンガス田やヤマル半島のガス田の開発計画をそれぞれ延期し、2009 年の生産量も抑制するなどの対策をとった。他方、足下では北米市場向け LNG 輸出への本格参入も視野に入れた動きを活発化させている。さらには、中国向けガス輸出交渉の継続、ウラジオストックからのガス輸出に関する F/S の実施、サハリン 3 開発の前倒しを示唆するなどアジア市場をターゲットとした取り組みに積極的な姿勢を見せ始めた。同社は 2010 年以降、世界経済の回復に伴い、欧州市場向けガス輸出は順調に回復すると見ており、これまでどおり欧州を中心に据えたガス輸出戦略に加え、アジア・太平洋への輸出先多角化を図っていく方針のようだが、今回の欧州向けガス輸出減少はそんなシンプルな出来事ではないだろう。

世界金融危機以降、米国をはじめ欧州や日本でも需要が大幅に減少し、世界的に LNG の余剰が発生したことに加え、米国での非在来型ガスの商業生産が本格化したことでさらに世界のガス需給は大幅に緩和され、LNG は行き場を失ってしまった。こうした状況下、欧州需要家らはガスプロムとの長期契約に基づいたパイプラインガスの引き取り数量を削減し、相対的に安価なカタールなどからのスポット LNG 購入を選択した。その結果、欧州ガス市場におけるロシア産ガスの比率は低下することとなった。昨年 12 月にはノルウェーの Snovit LNG が稼動再開しており、カタールからの LNG 輸出量が増えれば、ロシアはさらなるプレゼンス低下に直面すると予想される。また、欧州市場の需要を奪い合うことで、ガス輸出国フォーラムで協調関係にあるカタールとの間で緊張感が生じる可能性もあるだろう。このような状況下にあって、ガスプロムが米国市場・欧州市場でのシェア拡大を声高に標榜するのはやや楽観的すぎる感がある。

他方、欧州企業はこの時をチャンスとばかりに、ガス輸入量の削減・Take or Pay 契約に基づいた課徴金の免除について、ガスプロムと粘り強く交渉を行ってきた。2010 年 2 月、独 E. on とガスプロムは 2009 年に輸入しなかったロシア産ガスの補償として、今後数年間 E. on が本来の長期契約数量に上乘せし、その代金を前払いすること、価格決定方式を原油価格リンクからオランダ TTF ハブのスポットガス価格リンクへと変更することで合意した。しかし、原油価格リンクを維持した方がガスプロムは収益性を望める可能性が高く、現在のようない手市場にあってはますます自社の首を締めるような変更といえる。欧州向けガス輸出の急減によって、これまで強気であったガスプロムも大きく譲歩せざるをえなくなったということだろう。

ガスプロムの米国市場や欧州市場への過大な期待とやや意外ともいえる譲歩は、ガスプロムがいかに現在の世界ガス市場の変貌に戸惑い、対応が後手に回っているかの証左ともいえる。

欧州市場・北米市場のガス供給は飽和状態であることから、ガスプロムは足下ではアジア市場をターゲットとした戦略をとることにしたようだが、そのアジア市場でも相当厳しい競争が予想される。ガスプロムがアジア最大のガス需要国として期待する中国は、トルクメニスタン-中国間ガスパイプラインの稼働開始、LNG 輸入の本格化に加え、今後はミャンマーからのパイプラインガス輸入も始まることから、ガスプロムとの価格交渉において強気な姿勢を見せていくと考えられる。さらに、豪州やパプアニューギニア等からの新規 LNG 供給が複数計画されており、これらが立ち上がれば太平洋市場での競合が激化することから、新規参入者であるガスプロムにとってアジア進出も厳しい船出となるだろう。これまで北東アジア 3 カ国（日本、中国、韓国）はそれぞれが単独にガスプロムと交渉を重ねてきたが、買い手に流れが移ったいまこのときをチャンスと捉え、北東アジア 3 カ国が協力してロシアと交渉してはどうだろうか。

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp